

【奨励賞】

機械学習を用いた ESG 評価における Green Wash 定量化手法の提案

～企業の印象操作に惑わされないために～

同志社大学文化情報学部 久保 幸平

”

野口 哲汰

(要旨)

近年、ESG 投資における投資判断基準として、企業の非財務情報を用いた評価に注目が集まっている。しかしながら、非財務情報の多くは、記述的表現に基づいた定性情報となっていることから、企業による印象操作(所謂、「Green Wash」)に繋がる余地がある。

本論文では、機械学習手法を用いた Green Wash の定量化手法を提言した。具体的には、対象企業の CSR 報告書や統合報告書を用いて、文章データから非 Green Wash スコアを算出した。その結果、業種ごとに非 Green Wash スコアの高低があることが分かった。

この分析手法が投資時における ESG 要素の判断材料を補強し、Green Wash の疑いが低いと推測される企業への投資が促進されることが期待される。また、この分析手法が広く導入されることを通じて、各企業自体における見せかけではない ESG に関する取り組みの促進も期待される。